

**【全体の概要】**

- 全体の正答率は、県平均をやや上回る程度である。
- 到達度別平均正答率「要努力」は県平均を大きく上回っている。「おおむね達成」は県平均と同じである。「十分達成」は県平均とほぼ同じである。
- 観点別正答率は、「話す・聞く」「書く」「読む」が県平均とほぼ同じである。「知識・理解・技能」は県平均を大きく上回っている。
- 無解答率が県平均より低く、問題に粘り強く取り組んでいる。

	分析の結果・本校の課題	改善に向けた具体的取り組み
話す・聞く	<p>正答率は県平均とほぼ同じである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●話し手の意図を捉えながら聞くことができていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スピーチタイムでスピーチ者の意見に関連づけて話す練習をする。</li> <li>・話し合い活動や普段の発表の中で、疑問をもつ、評価するなど、聴き方の観点をもって聞かせるようにする。</li> </ul>
書く	<p>正答率は県平均とほぼ同じである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○目的や意図に応じて、新聞記事を割り付けたり、見出しを書いたりすることができている。</li> <li>●いくつかの条件にそって書くことに苦手意識がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業で物語文の要約や説明文の要旨・筆者の主張のまとめ方について取り扱い、自分が読んだ本でも取り組ませる。</li> <li>・普段から字数制限や条件のある課題に取り組ませたり、すくすくタイムで取り組んだりして慣れさせる。</li> </ul>
読む	<p>正答率は県平均とほぼ同じである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○必要な情報を読み取ることができる。</li> <li>●「引用」という言葉がわかっていない。</li> <li>●表現方法の違いによって、誤った読み取り方をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「引用」を用いた文章を書かせる。</li> <li>・様々な文章に触れさせ、その特徴をつかませる。</li> <li>・様々なジャンルの本を読む機会を設ける。</li> </ul>
知識・理解・技能	<p>正答率は県平均を大きく上回っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○漢字を正しく読んだり、正しく書いたりすることはできている。</li> <li>●文章の中で、どの言葉が主語なのかわかっていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文章を読み取る際に、主語について触れるようにする。</li> </ul>

**【全体の概要】**

- 全体の正答率は県平均を大きく上回る。
- 到達度別平均正答率では、「要努力」は県平均を大きく上回っている。「おおむね達成」「十分達成」は県平均とほぼ同じである。
- 観点別正答率は、「知識・理解」「技能」「数学的な考え方」いずれも県平均を大きく上回っている。
- 無解答率は0%で、問題に粘り強く取り組んでいる。

	分析の結果・本校の課題	改善に向けた具体的取り組み
数学的な考え方	<p><b>正答率は県平均を大きく上回っている。</b></p> <p>○特に割合や作図などの求め方を説明する問題は、よく良くできており、非常に高い正答率だった。</p> <p>●変則的な2つの図形の面積が等しくなる理由を記述する問題、概数を用いた見積もり問題の正答率が県平均と同程度だった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ペアタイム」や「みんなでタイム」を設定し、図、式、言葉を使って、筋道を立てて説明できるような学習活動を継続していく。</li> <li>・基本となる考え方をもとに、条件を変更した場合の考察をする問題や生活場面で概数を用いて考える問題を「よみときタイム」等で取り入れていく。</li> </ul>
数量や図形についての技能	<p><b>正答率は県平均を大きく上回っている。</b></p> <p>○整数や小数、分数の四則計算や概数の考え方については、良くできており、高い正答率だった。</p> <p>●180°以上の角度を考える問題では、正答率が県平均を大きく下回っていた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的・基本的な計算技能の確実な定着を図るために、従来通り、習熟の時間を設ける。</li> <li>・問題の意図をよく理解するよう、求めるものは何なのかを把握するよう指導に努める。</li> </ul>
数量や図形の知識理解	<p><b>正答率は県平均を大きく上回っている。</b></p> <p>○図形の特徴の問題は、良くできており、非常に高い正答率だった。</p> <p>●小数の加法を減法を用いて確かめる問題、展開図の位置関係を考える問題は、県平均を大きく下回っていた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三角形をはじめ、平行四辺形や円などの図形の特徴をきちんと理解させることを継続して指導していく。</li> <li>・計算技能は高いので、一度求めた計算を確かめる習慣を身につけさせていく。</li> <li>・立体の展開図については、授業中に、実物を用いて考えさせ、理解を深めさせる指導の工夫をしていく。</li> </ul>

**【全体の概要】**

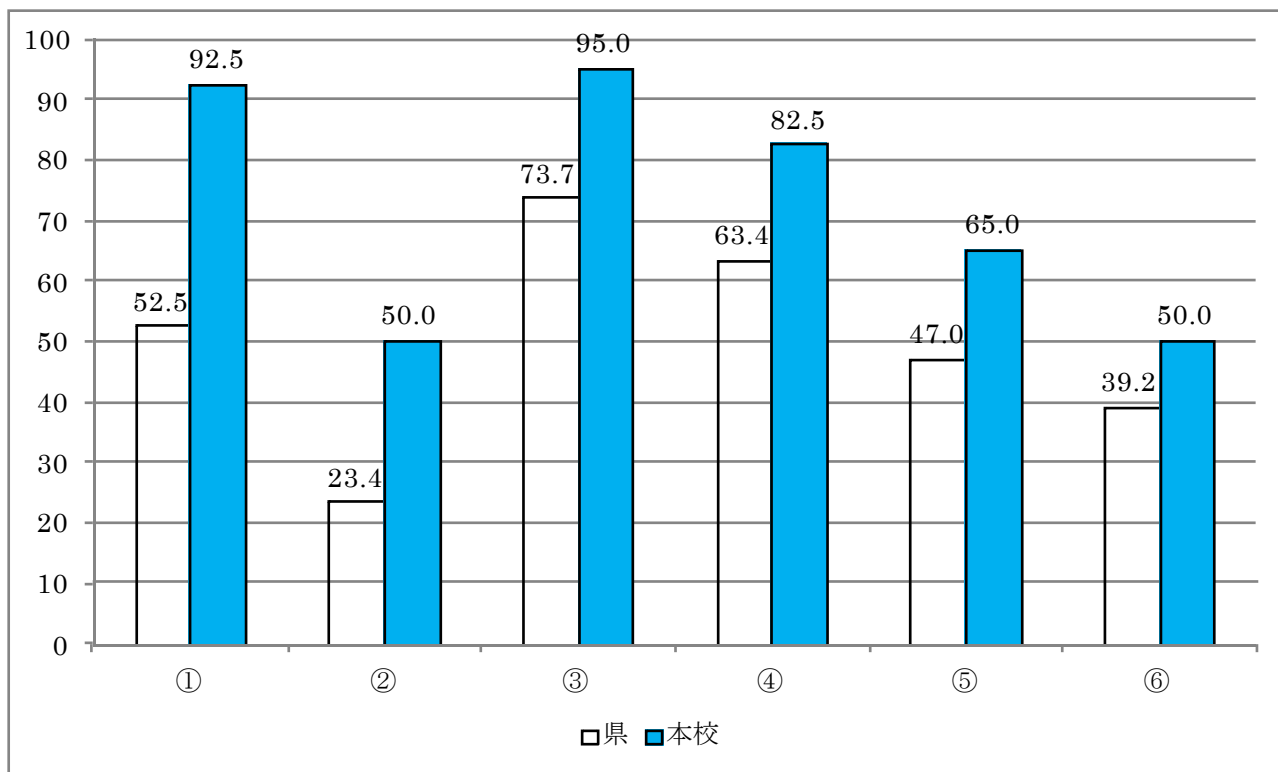
- 全体の正答率は県平均をやや上回っている。
- 到達度別平均正答率「おおむね達成」は県平均を上回っているが、「十分達成」は県平均より大きく下回っている。
- 観点別正答率は、「思考・表現」「数学的な考え方」は、県平均を大きく上回っているが、「技能」は、県平均とほぼ同じである。
- 無解答率が県平均より低く、ほぼ0%であり、問題に粘り強く取り組んでいる。

	分析の結果・本校の課題	改善に向けた具体的な取り組み
科学的な思考・表現	<p>正答率は県平均を大きく上回っている。</p> <p>○グラフを読み取り、金属の種類による熱膨張の違いについて理由を述べて解答することができていた。</p> <p>●月を対象として、観察している方位を問う問題では、県平均を大きく下回っていた。東西南北の位置関係がはっきりしていないことや月の観察時に軌道が十分理解できていないことが考えられる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・月や星に興味・関心をもち、方位をとらえながら観察することができるようになるために、宿泊を伴う行事で天体観測会などを設けて実際に月や星を観察する機会を多くする。</li> <li>・教室内に方位を掲示したり近隣の建物の方位を説明できるようにするなど、日常生活において方位を意識させる。</li> </ul>
観察・実験の技能	<p>正答率は県平均とほぼ同じである。</p> <p>●顕微鏡やメスシリンダーの名称は覚えているが、その使い方について十分理解できていない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が顕微鏡を試行錯誤しながら、実際に操作する時間を十分に確保する。演示用の顕微鏡で見えている様子をテレビモニターに映し出しながら見えている様子はどう変わるかを見せるなどの手立てを工夫する。</li> <li>・実際の操作をグループで行う際には、役割を固定せずに交代し、児童一人一人が観察・実験の技能を習得できるようにする。</li> </ul>
自然現象についての知識・理解	<p>正答率は県平均をやや上回っている。</p> <p>○「蒸発」といった理科用語をきちんと覚えている児童は多い</p> <p>●観察した記録から月の動きを十分理解していない児童も見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が夜間に観察した結果を学級全体で共有するために、観察カードを1つの図にまとめたり、教室全体や半球状のビーチパラソルの空間を利用して立体的に月の動きの共通点を確認したりする。</li> <li>・連続写真やICT機器を活用する。</li> </ul>

〔意識調査〕

【数値が特に高かった項目】

①	学校の授業の復習をしている。 * 「している (41.5)」「どちらかと言えばしている (45.0)」と答えた児童の割合
②	学校図書館や地域の図書館に行く頻度が週に1回以上行くと答えた児童の割合 * 「週に4回以上行く (12.5)」「週に1～3回以上行く (37.5)」
③	授業では、学級やグループの中で自分たちで課題をたてて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいたと思う。 * 「あてはまる (42.5)」「どちらかといえばあてはまる (52.5)」と答えた児童の割合
④	「総合的な学習の時間」で、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの活動に取り組んでいると思う。 * 「あてはまる (37.5)」「どちらかといえばあてはまる (45.0)」と答えた児童の割合
⑤	友達の前で自分の考えや意見を発表するのが得意。 * 「あてはまる (20.0)」「どちらかといえばあてはまる (45.0)」と答えた児童の割合
⑥	学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり文章に書いたりすることは難しい。 * 「そう思わない (17.5)」「どちらかと言えばそう思わない (32.5)」と答えた児童の割合



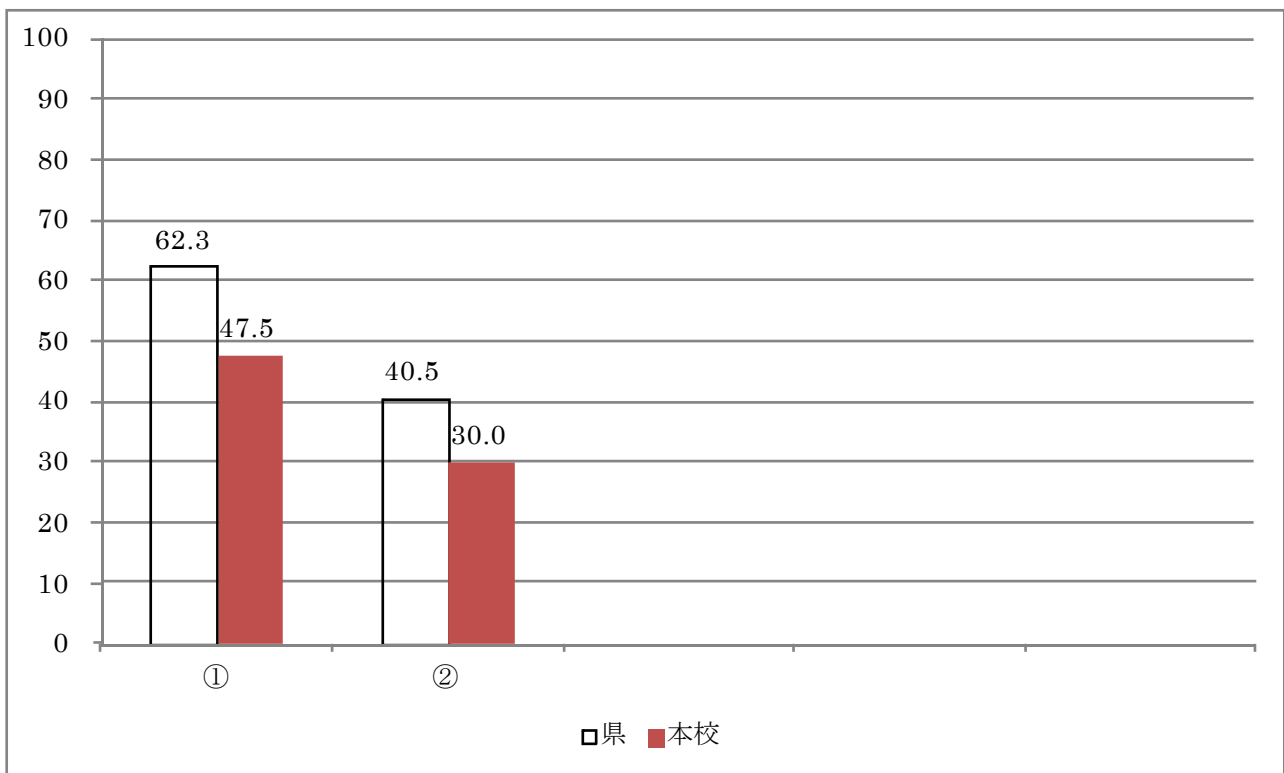
分析と今後の取り組み

- ・与えられた課題に、しっかりと取り組もうとする児童が多いが、自主学習などで自分の苦手なところを進んで学習することが必要である。「総合的な学習の時間」では、充実した学習ができています。(①④)

- ・図書委員会を中心に、読書推進のための様々な活動に取り組んでいることで、本に対する関心が高まったと思われる。学年に見合った本をじっくりと読んだり、習慣としての読書が身についたりすれば、図書館利用の頻度がより一層上がると考えられる。(②)
- ・全校を挙げて言語活動の充実に取り組んでいる。友達と意見交流をする学習場面を、機会を捉えて設定していることで、自分の考えを話すことへの抵抗が小さくなり、自信をもち始めている。(③⑤⑥)
- ・普段の授業などから、話す活動には慣れており、自信がついていると考えられるが、「文に書く(分かりやすく説明する)」ことには慣れていないと思われる。今後は、授業の中で、考えを書かせる時間を設定したり、日頃の作文(日記)指導に力を入れたりしていく必要がある。(⑥)

### 【数値が特に低かった項目】

①	地域や社会で起こっている問題や出来事に興味がある。 *「あてはまる(20.0)」「どちらかといえばあてはまる(27.5)」と答えた児童の割合
②	学校の授業の予習をしている。 *「している(12.5)」「どちらかといえばしている(17.5)」と答えた児童の割合



### 分析と今後の取り組み

- ・朝の会や帰りの会、スピーチタイムや帰りの会、道徳や学活、学級通信などで、芸能やスポーツ以外の時事的なニュースを話題として取り上げ、工夫して取り扱う必要がある。(①)
- ・自主学習の中で予習をさせたり、毎日の宿題で予習に取り組ませたりする。また、あらかじめ、学習内容を学級通信などで知らせ、家庭での話題にしてもらうことで、新しい学習への関心を高めていく必要があると考えられる。(②)